

平成 28 年度静岡大成高等学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
①授業力を高めて学習意欲を育て、基礎力の定着と自学自習力を強める。	指導方法を工夫しわかる授業、興味関心を引く授業に取り組み、学習内容の定着化を図り、それらを活用する力を育てる。	ICTを活用した授業、またはアクティブラーニングを活用した授業を実施し、フィードバックしながら授業技術を高める。	B	ICT 環境が不十分な中、積極的に取り組んだ。校外の研修会への参加や、校内の研修会での発表などを繰り返し、教員のスキルは上がってきている。まだ、個人差もある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は、校内 LAN が整備され、各教室にプロジェクターが設置されるようであり、アクティブラーニングや ICT を活用した授業の積極的展開が予想されるが、一部教員の活用に留まることの無いよう、十分学校内での活用をお願いしたい。</li> <li>この 2, 3 年かけて、教員にタブレット等の活用力及び授業への応用力を醸成してきたとのことであるが、是非、ICT 化の中で、多くの教員が ICT 設備を使いこなせるよう努力をしてもらいたい。</li> <li>授業評価アンケートは主観的と言われるが、全教員を比較すると客観的な状況が見えると聞く。本年度はより容易に授業評価ができるよう、マークシート方式からパソコン入力方式に変更したとのことであるが、授業改善等に積極的に役立てていただきたい。</li> <li>成績処理についてはダブルチェック体制をとっているとのことであるが、成績処理に係るミスはあってはならないものであり、是非、慎重、丁寧をお願いしたい。</li> </ul>
	授業規律を整え、落ち着いた学びの環境を作る。チャイムで始まる授業・授業始業の挨拶・机上の整理	授業開始時間前に教室に行き、生徒の机上の整理整頓を確認し、挨拶をきちっと行ってから授業に入る。	A	多くの教員は、時間を守り授業を開始している。授業も落ち着いている。	A	
	研究授業・公開授業に積極的に取り組み授業力の向上に努める。	研究授業を実施し、授業内容を改善する。または公開授業を参観し、自分の授業に取り入れる。	B	研究授業の参観の時間の確保が難しいところもあった。来年度はより積極的に参観したい。	B	
	シラバスの充実に努め、授業内容や評価について検討し改善を図る。	シラバス通りに授業を実施する。また、常により良い授業内容を目指し、シラバスに反映させる。	A	教科の担当者同士で授業のチェックをしっかりと行った。	A	
	生徒による授業評価を真摯に受け止め改善に努める。	生徒の授業評価から、自らの課題を確認し、改善するとともに、得意な分野をさらに伸ばす。	A	各自で後半の授業の改善に取り組んでいる。	A	
	校務電子化に伴いデータ入力は慎重かつ正確さを心掛け責任を持って処理する。	日常の記録を正確に行い、入力したものを必ず見直し、他者との読み合わせを行い、ミスをゼロにする。	A	入力によるミスは、昨年度と比べ減っている。一方、記録ミス等がまだあり、意識の向上がさらに求められる。	A	
	教務内規の「5段階評定換算表」の意義をよく理解し、目標達成へ積極的に取り組む。	生徒の学力を正確に把握し、定期テストや小テストの平均点を 50～60 点にし、提出物等と合わせ評定の平均が 5～6 となるようにする。	A	教務で毎回調査を行っているが、テストでは 50 点前後の平均点を保っている。評定平均は、やや低めであり今後の検討が必要である。	A	
	教務内規の徹底と個に応じた指導を心掛け、単位未修得者を防ぐ努力をする。	生徒一人ひとりの到達度目標を設定し、目標達成のための努力を正しく絶対評価し、単位未修得者を出さない。	A	学期途中においては、不安定な生徒がいたが、年間で単位が修得できない生徒は出ていない。	A	
ICT活用授業を推進するために、利用方法を教科で検討し、実践する。	教科で ICT 活用授業を実践するための話し合いを持ち、今年度のうちに全員が活用授業を実践する。	A	校内研修会を開きながら、全教科で検討し取り組んでいる。全員が実践できるかどうかは、ICT 環境の整備次第である。	A		
②心身を鍛え何事にも粘り強く果敢に挑戦するたくましい生徒を育てる。	生徒会活動・奉仕活動や部活動などを通して、集団への帰属意識を育て、規律や礼儀を重んじる態度を養う。	生徒一人ひとりに集団の一員であるという意識をもたせることにより、集団の規律を守らせ、正しい立ち居振る舞いをさせる	A	全体的には落ち着いた雰囲気の中で、秩序ある学校生活が行われている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンスクール等にステューデントスタッフが積極的に参加している。生徒が率先して学校行事に参加することは自主性の醸成にも繋がる。是非続けてもらいたい。</li> <li>昨年度から 英語部や自然科学部を導入され、部活動の選択の幅を広げている。顧問や場所の確保等難しい問題もあると思われるが、今後も、創意工夫して生徒の希望をできるだけ汲んでいけるようお願いする。</li> <li>資格取得は、その資格の内容も重要であるが、資格の取得という事実そのものも、生徒の自信に繋がる。検定に向けての指導や補習もたいへんであるが頑張ってください。</li> </ul>
	委員会活動や学校行事の一層の活性化に努め、クラスや学年の団結力や自治意識の向上を図る。	自分が担当する委員会を定期的に関き、生徒が自ら考え行動する委員会活動や学校行事を執り行う。	B	生徒自らが考え実行する委員会活動になるよう努力中である。	A	
	運動・スポーツに主体的に取り組ませ、自らの健康を保持促進できる実践力を養う	生徒に、自らの健康の保持促進を体育や体育的行事の目的として持たせ、実行させる。	A	体育関係行事への生徒の取り組みは悪くない。自分の目標をもって行っている生徒が多くみられる。	A	
	地域や学校外活動への参加を通して社会性を身につけさせる。	生徒に、自分の地域の行事や、その他の校外活動に参加させ、そこで学んだことをフィードバックさせる。	B	地域と関わりを持つ行事を設定し、教員と生徒と一緒に係わっていく必要がある。	B	
	計画性を持って資格取得に励み挑戦する意欲や物事をやり抜く力を育てる。	生徒に、資格取得の計画を立てさせ、取得のための勉強を最後までやり抜かせる。	A	高 1 では英検と漢検の全員受験を実施した。計画の立て方が合否に影響する場面もあった。	A	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的取り組み	学校関係者評価委員会			
					評価点	意見
③生徒一人ひとりの能力と適性が最大限に生かせる進路実現に努める。	第一学年は生涯設計やキャリア教育に基づき自己の適性や将来の希望を生かした進路実現計画を立てさせる。 第二学年は外部の進路説明会やオープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路目標を明確化させ、その実現に向けた指導をする。 第三学年は目標達成のために能力を最大限発揮させ進路実現・自己実現を図る。又、進路情報や知識の習得に努め、生徒や保護者に的確な情報を伝え、進路実現に向けた支援体制を強化する。	1年次には、3年間の進路実現計画書を作成させる。2年次には、生徒一人ひとりの進路目標実現のための具体的な指導計画書を教員が作成する。また、3年次に、生徒・保護者への確かな情報を伝えることができるよう、日頃の進路情報や知識を習得する。	B	進路が決まらず、計画書の作成ができない生徒もいる。進路目標を設定させる指導に課題がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も、進路指導、就職指導には、進学及び就職について補習や面接等を繰り返し実施しているとのことであり、今後ともよろしく願いたい。</li> <li>進路選択に当たり、進学に係る費用や奨学金の有り様について、保護者はもちろん、生徒にも理解させる機会が必要ではないか。</li> <li>本年度は、文部科学省の新学習指導要領等の動向を勘案しながら、本校の特色である総合選択制のあり様を掘り下げたとのことであるが、今後も、ベストな方向性を模索してもらいたい。</li> </ul>
	小論文講座の充実や各種資格取得率の向上を目指して、生徒の意欲を伸ばす。	小論文を書くのに必要な語彙力・漢字力・文章力を生徒につけさせ、生徒一人ひとりの小論文トレーニングの判定を上げる。	B	教材が難しく手がつけられない生徒もいる。社会情勢への関心も高めていく必要がある。	B	
④基本的な生活習慣と規範意識を確立させ、豊かな人間性を養う。「衣を正し、時を守り、場を静め、礼をつくす」	3 マナーアップ指導を心掛ける。 1 登下校時のマナーアップ 2 授業のマナーアップ 3 校内でのマナーアップ	自転車の乗り方、電車やバスでのマナー、授業の掙、挨拶・言葉遣いなどが、常識の範囲内で自然にできるようにする。	B	違反者、挨拶がしっかりできない生徒等、常に気を配っていく問題である。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶については、明るく気持ちよくできる生徒が多く、オープンスクール等のアンケートからもお褒めのことばをいただいている様子であり、続けてもらいたい。</li> </ul>
	規範意識を高め、社会や家庭・学校のルールを遵守し、反社会的行為の未然防止に努める。	自らが、社会の常識をわきまえ、職場のルールを守った上で、生徒にルールを守ることの意義を折に触れて伝える。	A	社会の非常識が教員の常識とならないよう、常に心得ていく必要がある。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別指導については、ここ数年間劇的に減少しており、先生方の努力の賜物であると考えます。また、マナーについても、最近は電車やバスでの苦情が減少している。先生方に感謝したい。</li> </ul>
	挨拶の励行、品位ある服装や態度	自らが、相手に伝わる挨拶をし、服装に気を配り、大人として振る舞うことで、生徒に高校生としての意識を持たせる。	A	個人差をなくしていきたい。	A	
	心身の健康管理、規則正しい生活習慣の確立をめざし遅刻者撲滅に向けて取り組む。	生徒一人ひとりの健康状態に気を配り、適切な声掛けをするなどして、生徒の心身の健康状態を安定させる。	A	生徒への声掛けは丁寧にできている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度はスクールカウンセラーへの相談時間等を、より一層配慮していくとのこと。よろしく願いたい。</li> </ul>
	SNSやLINEなどの情報伝達手段の使用についてのマナー指導	自ら情報伝達手段について研究し、正しい知識の下で、生徒に適切な使用を教える。	A	情報伝達手段の進歩に追いついていけるよう努力していくことが必要である。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSやLINEについては、時間帯の制限や禁止時間等を決め、保護者がそれを熟知するように説明する等の対策を講じてもらいたい。</li> </ul>
	学校での生徒の変化に気を配ると共に、情報を共有できる体制を作る。	学年会や教科会などの定期的な会議の中だけでなく、日頃のコミュニケーションでも情報の共有を図る。	A	その場その場で、お互いに確認し合ったり注意し合ったりすることを日常的に続けていかなければならない。	A	
⑤生徒や保護者が誇りや充実感の持てる教育を実践し、外部に効果的に発信する。	生涯学習・PTA行事・地域交流には積極的に取り組み、本校の幅広い教育活動に理解を深める。	生涯学習講座、地域交流講座に自分のできる範囲で関わり、PTA行事にはできるだけ参加する。	B	PTA行事への参加が課題である。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流講座等を実施するとともに、地元の自治会と連携を密にされている。継続してもらいたい。</li> </ul>
	若手教員研修を通して、指導者も指導を受ける側も本校教員としての資質の向上を目指す。	若手教員の指導にそれぞれの立場で携わり、自ら範を示し、さらに自分の資質を向上させる。	B	若手教員の模範となるよう、自らを律していくことが必要である。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集のため、教員全員が広報部員であるという意識の下に、説明会や校外での活動等を実践しているとのこと。頑張ってもらいたい。</li> </ul>
	本校の情報を効果的に外部に発信できる広報活動を工夫すると共に、全職員が力を合わせて広報活動を進める。	校内での広報活動に携わると共に、部活動、PTA活動、校外での活動等で自分のできる広報活動を実施する。	B	自分たちの教育に自信をもって、外部に発信していかなければならない。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった